

経営比較分析表（令和5年度決算）

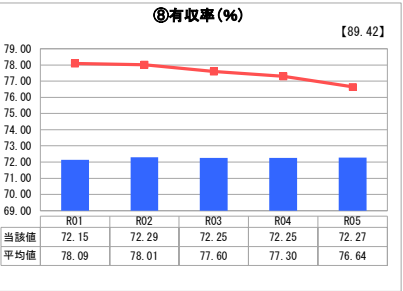
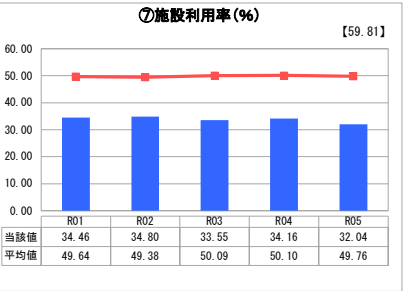
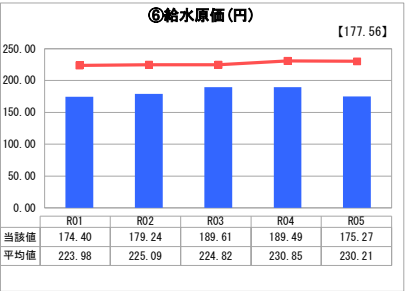
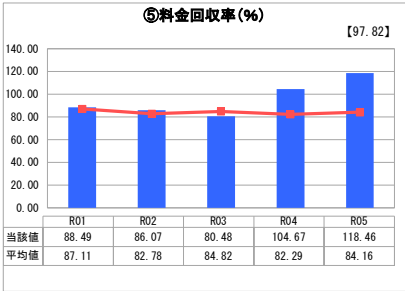
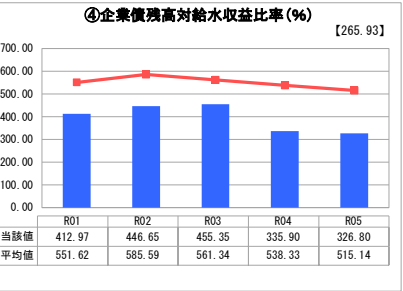
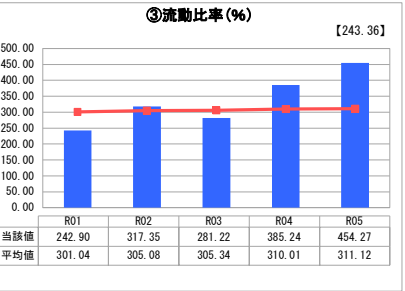
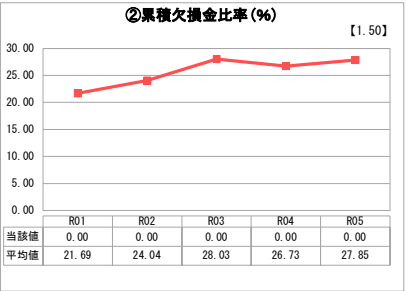
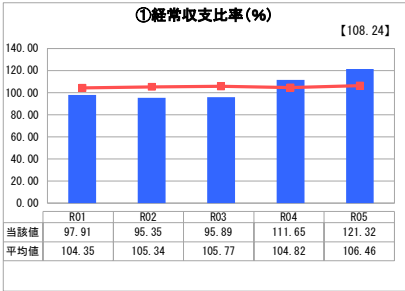
静岡県 河津町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	58.50	95.14	3,520	

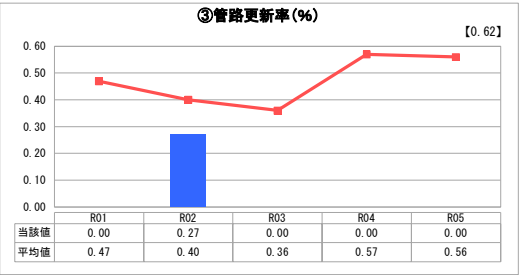
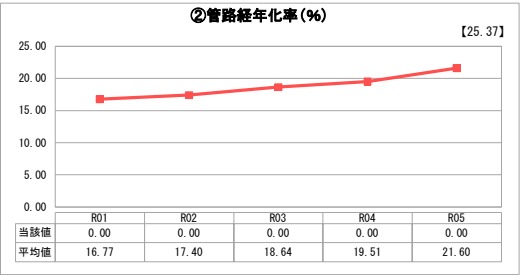
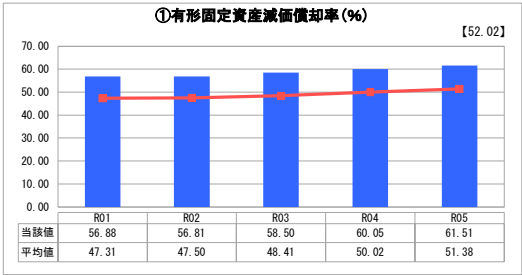
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,552	100.69	65.07
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
6,153	18.16	338.82

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」の好転の要因は、令和4年度からの料金改正によるもので恒久的な安定でなく、施設更新や耐震化を進める上では、将来的には料金改正が必須となる。また昨今の物価上昇を鑑み支出の抑制にも努めなければならない状況に変わりはない。

「③流動比率」も同様で料金改定による増加と、起債借入額の減少によるところであるが、配水池等の更新事業を控え、今後起債等の借入増加が見込まれる為、徐々に比率の低下が予測され、これは「④企業債残高対給水収益比率」の上昇も予測される。また「⑤料金回収率」は給水収益の値上げ分の増とその影響等による年間総有収水量の減少による供給単価の増加と、「⑥給水原価」の減少により100%を上回る値となった。

「⑦施設利用率」は給水人口の減少が今後も見込まれており、能力過剰の状況であるが、給水範囲の変更・縮小等の計画も無いので、当面同様の推移であると予測される。

「⑧有収率」については、大口利用の休業等利用水量減の影響もあったが、日頃より日常の点検水量の比較等により漏水個所の特定・改善に努め、またメーター類に関しても計量法に則り定期的な交換作業の実施により、有収率の向上を目指している。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」の数値は年々上昇している。「②管路経年化率」「③管路更新率」についても耐震化等水道管の更新は進んでおらず、今後耐用年数を経過した管路の増加による経年化率の悪化で、更新率の改善も見込まれない。これら是有収率の低下（見えない漏水）の要因でもあると考えられるため、耐震化を含めた施設更新事業の実施が望まれるが、令和7年度に見直し予定の経営戦略では施設の更新・耐震化は最重要課題の部分であり、更新に当たっての財政見直しも含め検討し、計画を盛り込み実施していかなければならない。

全体総括

当面の収益状況では、料金改正による給水収益増加が見られたが、物価上昇による利用者の使用控への発生は懸念されるところである。また人口の減少は今後さらなる進行が予測される中で、施設の更新は必須であり、支出の増加に伴う収益の維持にもさらに努めなければならない。料金改正も見込んだ計画を作成し実行していきたい。